

昭和十二年

三宅克己畫伯
近作水彩畫展

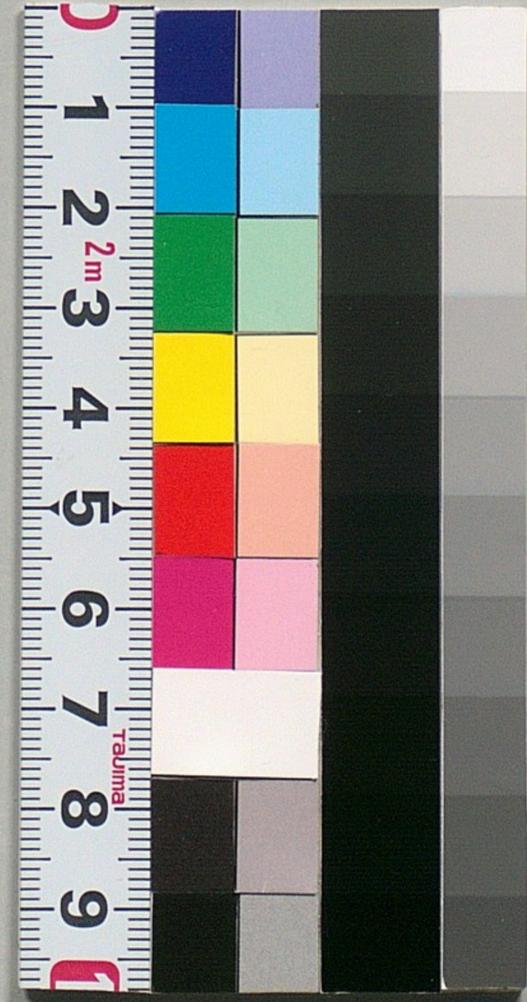
11月27日(土)——30日(火)

1937年

(午前9時——午後9時)

銀座數寄屋橋際 電話銀座(57)4418

日 動 畫 廊



非常時の繪畫鑑賞

國家非常時の昨今、悠長に繪どころの場合では無いと云ふ者があります。

然し又一方には、國家非常時、世態殺伐のこの際、美術を鑑賞することは、寧ろ大に奨励すべきことだと説く者もあります。

前者は小國民の狹量。後者は即ち大國民の度量を示したものと云ふことが出来ませう。吾々日本帝國臣民は申すまでも無く世界無比の大國民であると確信しますが、如何なる非常時にあつても、吾々は尙悠々と繪を描き、又これを鑑賞する餘裕があつて欲しいと思ひます。この意味に於て、貧弱ながらも今度の私の個展、一度は緩々御清覽の榮を願ひ度いのであります。

陳列の作畫は、宛も日支事變勃發以後の製作であることを併て御紹介申上て置きます。

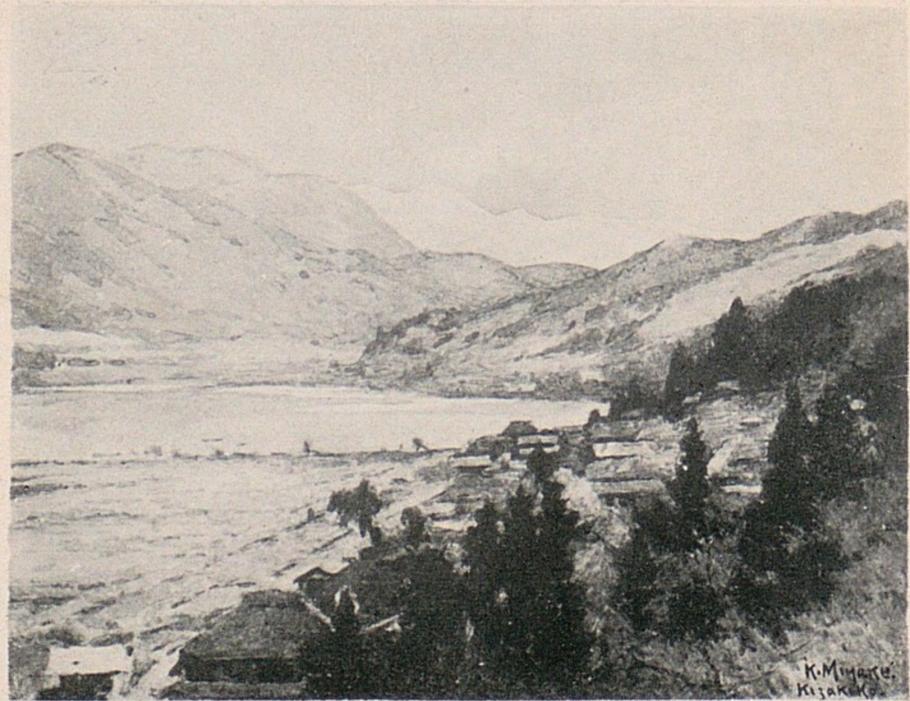
敬具

昭和十二年十一月

三宅克己



山には残雪里は春の陽



木崎湖畔海の口の春



箱根に續くはつ秋の山



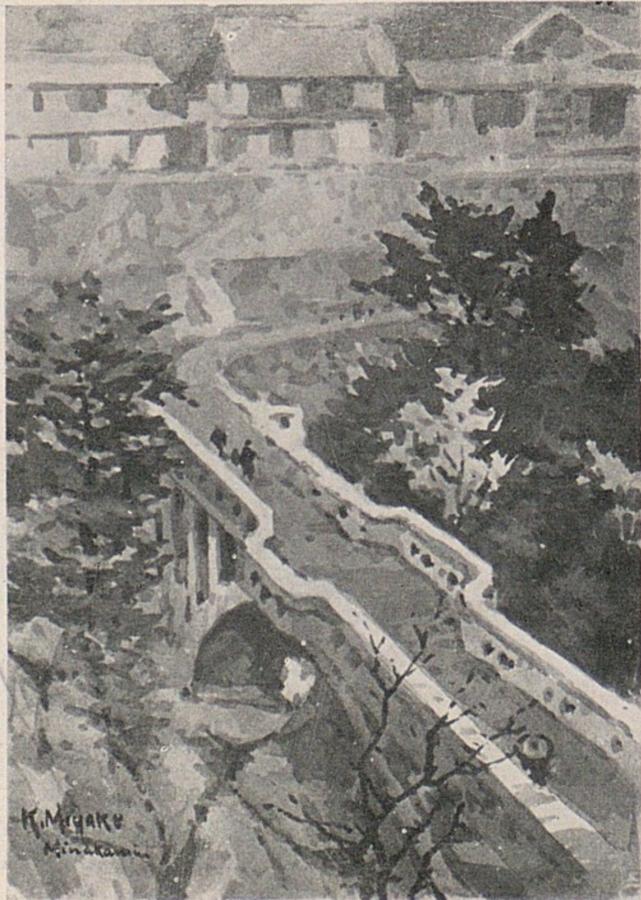
小鳥轉る強羅公園



東京驛



緑は深し鹽原の夏



文化風景湯の街の秋



木崎湖に映る遠山の雪

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
木崎湖に映る遠山の雪	山にはまだ雪信州大町	人里遠き鹽原の峽谷	緑は深し鹽原の夏	他郷に稀なる信州の雲	杏子の花咲く信州の春	野尻湖上夕の印象	夕暮静けき野尻湖の空	野尻湖上の夏雲の影	楠樹茂れる伊豆の海岸	箱根に續くはつ秋の山
六	六	六	六	十	十	十	十	十	十五	十五
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
アルプス残雪遠く夢のよう	秋景色旅舎の窓より	奥利根の秋山はくれない	文化風景湯の街の秋	上州鹽原太助の生家	朱と黄で描きし上州の秋	紅葉に埋る秋の笹の湯	燃ゆる紅葉の猿ヶ京の谷	山には残雪里は春の陽	平和に暮れる野尻湖の夏	木崎湖畔海ノ口の春
四	四	四	四	四	四	四	四	六	六	六
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號

出品目録



野尻湖上夕の印象



楠樹茂れる伊豆の海岸

23	木崎湖より見る山頂の雪	四	號
24	花咲けど山はまだ冬宮の下	四	號
25	苔の香深し箱根宮城野	四	號
26	小鳥囀る強羅公園	四	號
27	綠なす山又山の箱根風景	四	號
28	伊豆伊東郊外の一碧湖	四	號
29	南國情緒伊豆の赤澤	四	號
30	長岡の湯街に近き狩野川の景	四	號
31	空見へぬ山影深き楠の老木	四	號
32	人影絶えし森の細徑	四	號
33	紅の雨降りしかとも見ゆ笹ノ湯の庭	四	號
34	冬も綠の伊豆の上多賀	四	號
35	野尻湖スケッチ外人村の望め	三	號
36	妙高山腹朝たちし雲	三	號
37	湖を隔て、妙高山遠し	三	號
38	野尻湖畔外人水泳場に近く	三	號
39	野尻湖畔秋既に近し	三	號
40	琵琶島を望む野尻湖の景	三	號
41	長閑なる伊豆の海岸	三	號
42	箱根芦ノ湖畔夏の眺望	三	號
43	越後田口よりの朝の妙高	三	號
44	妙高山麓化の咲く頃	三	號
45	宮城	二	號
46	濠端	二	號
47	東京驛	二	號
	他番外數點		

山下繁雄畫伯個展

12月1日—4日

岡田謙三畫伯第二回近作展

12月5日—9日

七彩會展

12月10日—13日

歳末特價奉仕洋畫展

12月15日—31日

現代洋畫の逸品を網羅すること一千餘點
新興洋畫壇の個展形式の最高典型的會場

日 動 畫 廊

店 主 長 谷 川 仁
東京・銀座・西五ノ一
電話銀座(57)4418

日動畫廊展覽會パンフレット NO. 16